

令和5年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473500591	事業の開始年月日	平成17年8月1日
		指定年月日	平成17年8月1日
法人名	株式会社保健科学研究所		
事業所名	グループホームさくら園		
所在地	(〒244-0845) 神奈川県横浜市栄区金井町1600		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計 ユニット数	18名 2ユニット
自己評価作成日	令和6年2月28日	評価結果 市町村受理日	令和6年4月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナが5類になり、毎年行われている町内の祭礼に4年ぶりに参加できました。お神輿の宿として駐車場の提供や、飲み物の配布、又、町内の葬儀時は園の駐車場を全面解放させていただいております。その他、AEDや発電機等『困ったときはお互い様』という昔ながらのお付き合いをこれからも続けて行きたいと考えます。事業所として町内に貢献できることを積極的に行っています。また、自然の多い環境も魅力の一つと考えます。四季を大いに感じる事ができ、リスやフクロウ、春には鶯の鳴き声も聞こえます。園の周りに桜がたくさんあることから、『さくら園』となりました。これからも地域一体となった運営を心がけて参ります。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和6年3月13日	評価機関 評価決定日	令和6年3月29日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

#### 【事業所の優れている点】

◇地域との連携

町内会祭りの御神輿休憩所として駐車場提供、子ども神輿に利用者参加、町内葬儀時の駐車場開放、コロナワクチン会場として場所提供、消防団指導下の避難訓練、AEDや発電機の準備(地域住民使用可)、近隣畑で利用者ミカン刈り、散歩時の近隣住民と挨拶等、地域との交流・連携を密に行っている。

◇利用者と家族の思いに沿った運営

新型コロナウイルスは5類に移行したが感染に対して油断できず、面会は玄関で行っている。園に来られない家族には電話等により利用者と家族の距離が離れないように配慮している。通信「さくら日和」に行事や食事の様子の写真を多数掲載し、職員のコメントを添えて利用者の笑顔を家族に伝えている。

◇充実した医療体制

内科医による月2回の訪問診療、24時間医療連携体制、看護師(非常勤職員)による週2回の健康確認、協力歯科医による毎週訪問診療と口腔ケアがある。

#### 【事業所が工夫している点】

◇危険因子報告の励行

事業所内で事故につながる危険因子を見出したり感じたときは書類報告し、ユニット会議等で検討して可能な限り対策を打っている。これにより重大事故を防止し、安全衛生に対する職員の感受性を育てている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム さくら園
ユニット名	ひばり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		:	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、年度に園の目標を話し合い玄関に掲示している。	・事業所理念を「人格の尊重、家庭に近い環境、自立、地域との融合と社会参加」とし、事業所内に掲示している。 ・毎年の目標を職員全員で検討して設定・掲示し、日々の実務のベースにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナで地域の方と関わるのがすくなかったのですが、5類以降は積極的に散歩を再開し地域の方とも挨拶や会話をして交流しております。	・事業所をコロナワクチン接種会場とする等、地域住民の暮らしを支援し、地域の一員としての活動を続けている。 ・コロナウイルスの5類移行後、地域の祭りが復活し、子ども神輿に利用者と職員が参加して楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年1月の消防団合同訓練にて、年々地域の方の参加も増えご利用者様と直接関わる機会増やし、理解を深めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナにより運営推進会議は書面開催でした。9月からは2ヶ月に一度開催。行政・民生委員・ご家族様も参加してくださり意見交換が出来ている。	・運営推進会議は地域住民代表(町内役員、民生委員)、家族代表、区職員、ケアプラザ職員、事業所職員を構成員とし、2か月毎に開催し、情報交換、意見交換をし、アドバイスを得ている。令和5年9月から対面方式にした。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空き室が出た際は、区役所・地域ケアプラザへの連絡を密にし、日ごろから連携が取れるようにしている。	・区職員、ケアプラザ職員と日常的に密に連携し、諸行政手続き、情報交換をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	年に4回の社内研修にて身体拘束の研修を行っています。すべての職員に周知徹底を図っています。	・法人開催の身体拘束適正化委員会(年4回、管理者出席)の結果を事業所全職員に周知している。 ・身体拘束適正化に関する事業所内研修を年4回行い、身体拘束になる行為の理解を深め、実務への反映に努めている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の社内研修にて虐待防止の研修を行っています。ユニット会議での学習や自己学習を設け虐待防止の理解に努めています。	・虐待防止マニュアルがあり年2回の内部研修を行っている。神奈川県の高齢者虐待自己点検シートを用いて年1回自己点検している。 ・実務で不適正な言動を見かけた際は管理者がその場で注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は、現在両ユニットで3名ご利用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、入所時には、管理者・ケアマネージャー・ユニットリーダー同席の上契約条項を確認しながら契約を行っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	9月から2ヶ月に一度運営推進会議が開催され家族間で意見交換を行い日頃の様子等をお伝えしています。	・運営推進会議で家族代表から意見を聞き、家族来訪時や電話で意見や要望を把握している。 ・意見や要望についてはユニット会議で検討し、可能な内容は実施すべく努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日々の申し送りで職員の意見や提案を話し合い業務に反映できるように努めている。	・日常の職員間や管理者との会話の他、ユニット会議で職員意見を把握し、可能な提案は実現すべく努めている。 ・ケア方法、業務の流れ等に関する提案があり、業務に反映している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見が反映される場面を作り、やりがいや気持ちを損なわない様な環境作りを心がけています。個々の特技や能力を生かすような仕事配分をしています。	・職員の資格や職位による給与水準は法人で制定されており、職員の向上心を促進している。 ・法人の就業規則に基づき、ワーク・ライフ・バランスに配慮した適切な人事管理に努めている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	すこしずつですが、外部研修にも参加出来るようになり内部・外部研修に参加する事で質の向上に努めています。	・法人、事業所が主催する年間研修計画に職員が参加し、知識習得、実務への反映に努めている。 ・コロナ禍が治まり、外部研修の情報を職員に提供し、研修への参加を支援している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系列のGHに研修を兼ねて手伝いに行く事で職員自身のスキルアップや質の向上につながっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、必ずご本人様にお会いし、ご家族様に日頃の様子をお聞きしています。入院中の場合は、HP関係者よりお話を伺い、入所後のケアがスムーズに行えるようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能な限りご本人様とご家族様の想いに沿った支援提供に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	園での生活を安心して過ごせるよう、福祉用具や居室の整備も配慮しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々生き生きと生活できる環境づくりに努め利用者様が出来る事などは声かけし、出来ないことは職員と一緒にやるなど家族のような関係作りを心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様一人ひとりが家族の一員になるようご利用者様の心の支えになれるように努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出の制限はありますが、ご利用者様との関係が途切れないよう努め、友人、知人のお手紙や電話のやり取り等は積極的に受けています。	・コロナ対応で事業所内での面会は制限があるが、必要に応じ電話、テレビ電話、手紙を通じて馴染みの人との関係継続に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居心地よく過ごして頂く為に席の配置に気を配っています。また、トラブルになりそうな時等はスタッフが間に入り安心して過ごせるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用様が退所された後も機会があれば他施設の面会や訪問をさせて頂いています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしさを大切に日々の会話の中にみられる表情や言葉等で、支援を行えるよう努めています。	・ 日常会話、入浴など寛いでいるときに意向や希望を聞いている。 ・ 表出困難な利用者の場合は、表情、仕草等から思いを察して本人に確認している。 ・ 家族から利用者本人の思いを把握する場合もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前には必ずご家族様に十分な話し合いの時間を作って頂き、入居後もご本人様の様子変化の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りをし、職員同士情報共有を心がけご利用者様の現状把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日記入しているモニタリングで一日の様子や状態を確認し今後のプランへ繋げています。また、ケアプランを作成するときには職員にアセスメントを取っています。	・月1回のケアカンファレンスに出席可能な職員が参加し、毎日のモニタリング結果を確認しながらケアプランの見直しをしている。 ・概ね6か月ごとにケアプランを見直し、変更時は家族の承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員一人ひとりが利用者様に寄り添い、気付いた情報をみんなで共有し話し合えるよう意識している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お看取りを希望される家族が増加して参りました。背景にコロナが関係しているものと思われませんが、時代の変化に合わせたニーズに柔軟に対応して参ります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方とのふれあいを大切にしています。町内のみかん狩りに毎年参加させて頂く等、地域住民となり、ここで楽しく充実した生活が送れるようにお手伝いさせて頂いています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科往診、月1回の歯科往診、週1回の看護師の健康チェックを行い、医療の目が行き届く様になっています。	・協力医（内科・歯科）の定期訪問診療のほか、看護師（非常勤職員）が週2回健康チェックをしている。医療依存度の高い場合のケアも行なっている。 ・通院は家族の都合によっては職員が同行している。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護（週2）園とナース間に情報ノートを用意し処置や情報を共有しています。また、その送りノートは往診医とも連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、直接病院へ出向きご利用者様の様子を確認。医師や看護師からしっかり話を聞かせてもらう機会を作っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルは家族の要望が増えています。それに応える機会も増えました。それに伴い、家族、病院、園での情報を共有しています。	・入居時の指針を用いての説明のほか、医師が終末期と判断をした場合は再度家族と話し合い、希望や意向に沿うようにしている。 ・今年度は数名の看取りケアを行っており、職員は実践から「看取り」の理解を深めるようにしている。	「看取りケア」について、研修での学びから理解をさらに深めていくことも望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修のほか、マニュアルにて取得。消防訓練時に応急処置、AEDの実践訓練も行っています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地域の消防団との合同訓練を行い、協力体制が密に取れる様、関係づくりを構築しています。	・地域と防災協定を結んでいる。 ・BCP（業務継続計画）を作成している。 ・年2回、事業所単独のほか、地域（消防署・消防団・町内会・寺院）との合同訓練を行なっている。	・地域との密な協力体制があり、コロナ禍以前は合同訓練時に夜間想定を取り入れていました。コロナの状況を見ながら、夜間想定訓練を再開することが望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様は、お客様であることを念頭に声かけや言葉使いにも常日頃より節度ある対応を心がけています。	・職員は、認知症理解・接遇・プライバシー・個人情報等を研修で学んでいる。 ・利用者との信頼関係が構築されていても慣れ合いにならず、利用者は年長者・お客様であることを心がけたケアに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様それぞれ気持ちをしっかり表現できる方、できない方がいらっしゃるなので職員も接し方や言葉かけを、工夫して少しでも心を開いてくださるよう努めています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様本人のその日の気持ちや体調を優先して考えています。自宅にいた時と同様、穏やかに過ごせるよう、支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えや起床時の着替え等、ご自分で行うのが難しい方はご一緒に揃えるようにしております。季節にあったお洋服を着て頂いております。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しみの一つであるお食事なのでその方に合った食事形態にして嚥下体操も食事前に行い美味しく楽しく召し上がって頂けるよう努めています。	・昨年、食事委託業者の変更をおこなった。美味しくなったと利用者から好評である。 ・年中行事、誕生会等のほか、利用者のリクエストに応え、居酒屋さくらと称し、ノンアルコールビールを楽しむこともしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を表にして毎日管理しております。極端に減少してきた方においては、医師に相談しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分で行える方は声掛けをし、それ以外の方は見守り、介助をしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握し時間で声掛けを行うよう心がけています。全介助、テープ式の方は時間で対応しています。	・トイレでの排泄を基本としている。尿意があり自らトイレに行く場合は職員がさり気なく支援をしている。夜間帯も本人のペースに合わせて、トイレ誘導している。 ・退院後に自立度が落ちた場合も職員の適切な支援の繰り返しで、退院前の状態に戻っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操、園の近くを散歩する等、適度な運動を心がけ、スムーズな排便に取り組んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1日3名を基本に、ローテーションで提供しています。	・1日3名を基本に入浴支援をしている。 ・介護度が高く、浴槽を跨ぐことが難しい場合はシャワー浴対応をしている。 ・職員との1対1の会話のほか、時折入浴剤を入れ香りを楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中は体操と散歩。午後は歌レクリエーション、入浴以外の利用者様は足浴を実施し衛生面にも注意しながら水虫などの病気予防も気をつけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量、間違えのない与薬を行う為、利用者様一人ひとり、薬のチェックシートを用い、複数の職員間での確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものを畳む、新聞折、食事前の号令等、役割を持っていただくようにしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課の散歩や定期通院に出かけております。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩コースがあり、散歩を日課としている。</li> <li>・地域の人々の好意で毎年ミカン狩りを楽しんでいる。</li> <li>・以前行っていた遠出の外出に関してはコロナの状況を見ながら再開を検討することとしている。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルを防ぐためにも、入居時に家族へ説明。現金の持ち込みはご遠慮いただいております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在お手紙を書ける方はいらっしゃいませんが、お電話でのやり取りは行えています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に季節事に貼り絵をして頂いた模造紙を廊下に貼り出し、楽しんで頂いています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃、換気、消毒、強力な空気清浄機の設置等感染症対策に注力している。</li> <li>・廊下やリビングに利用者制作の季節の作品を展示している。</li> <li>・リハビリ体操・ラジオ体操・青竹踏みを日課とし、皆で体を動かしている。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お好きな時間に居室でテレビを観たり、リビングで他のご利用者様と一緒にテレビをご覧になったり、新聞を読んだり、思いおもいに交流しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活してきた中での馴染みのあるものを居室内に置かれ、かけ離れた空間にならないよう工夫しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンス、小物品、家族の写真、テレビ等を持ち込んでいる。</li> <li>・本人の状態に合わせ、レイアウト変更を行なうこともある。</li> <li>・居心地よく過ごせるよう、居室担当職員を中心に、整理整頓、衣替え、不足品の確認等をしている。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が目で見て分かるようにプレートを取り付け、スムーズに混乱なくお過ごし頂けるよう工夫しております。		

事業所名	グループホーム さくら園
ユニット名	うぐいす

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が毎年度園の目標を掲げ、玄関に掲示しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナにより地域の方とかわることが激減しました。それでも今年は町内の祭礼が復活し、参加できたことが何よりでした。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内消防団との合同消防訓練は、毎年恒例となっています。地域の方も増え利用者様はじめ職員も直接かわる機会が増えているので理解を深められています。今年は、災害派遣のため延期になりました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナにより運営推進会議は書面開催でしたが、9月からは2ヶ月に一度開催。行政・民生委員・ご家族様も参加してくださり意見交換が出来る。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空き室が出た際は、区役所・地域ケアプラザへの連絡を密にし、日ごろから連携が取れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	年に2回の社内研修にて身体拘束の研修を行っています。すべての職員には、周知徹底を図っています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に4回の社内研修にて虐待防止の研修を行っています。ユニット会議での学習や自己学習を設け虐待防止へに徹底を図っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は、現在両ユニットで3名ご利用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、入所時には、管理者・ケアマネージャー・ユニットリーダー同席の上契約条項を確認しながら契約を行っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	9月から2ヶ月に一度運営推進会議が開催され家族間で意見交換を行い日頃の様子等をお伝えしています。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日々の申し送りで職員の意見や提案を話し合い業務に反映できるように努めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の声を聞き、日頃の取り組みや業務に対し向上心を持って働けるよう面談を行い業務に反映できるよう努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は、外部研修にも参加出来るようになり内部・外部研修に参加する事で質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系列のGHに研修を兼ねて手伝いに行く事で職員自身のスキルアップや質の向上につながっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前は、ご本人様にお会いして日頃の様子等を聞き入所後どのような支援が必要か確認しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られたとき等、日頃の様子をお話させていただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様と良く話し合い、情報収集に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員間で情報を共有し、本人が過ごしやすい場を提案出来るよう努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様一人ひとりが家族の一員になるようご利用者様の心の支えになれるように努めます。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出の制限はありますが、ご利用者様との関係が途切れないように努め友人、知人のお手紙や電話のやり取り等は積極的に受けています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居心地よく過ごして頂く為にトラブルになりそうな時等はスタッフが間に入り安心して過ごせるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者様が退所された後も機会があれば他施設の面会や訪問をさせて頂いています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしさを大切にし日々の会話の中にみられる表情や言葉等で、支援を行えるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前には必ずご家族様に十分な話し合いの時間を作って頂き、入居後も少しでもご本人様の様子の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	漏れなく申し送りをし職員同士、情報共有を心がけご利用者様の現状把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日記入しているモニタリングや、ケアプランで一日の様子や状態を確認し今後のプランへ繋げています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員一人ひとりが利用者様に寄り添い、気付いた情報をみんなで共有し話し合えるよう意識している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お看取りを希望される家族が増加して参りました。背景にコロナが関係しているものと思われていますが、時代の変化に合わせたニーズに柔軟に対応して参ります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方とのふれあいを大切にしています。町内のみかん狩りに毎年参加させて頂く等、地域住民となり、ここで楽しく充実した生活が送れるようにお手伝いさせて頂いています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科往診、月1回の歯科往診、週1回の看護師の健康チェックを行い、医療の目が行き届く様にしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護（週2）園とナース間に情報ノートを用意し処置や情報を共有しています。また、その送りノートは医師とも連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、直接病院へ出向きご利用者様の様子を確認。医師や看護師からしっかり話を聞かせてもらう機会を作っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルは家族の要望が増えています。それに応える機会も増えました。それに伴い、家族、病院、園での情報を共有しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修のほか、マニュアルにて取得。消防訓練時に応急処置、AEDの実践訓練も行っています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地域の消防団との合同訓練を行い、協力体制が密に取れる様、関係づくりを構築しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「親しき中にも礼儀あり」の精神で声掛けや言葉使いにも個々に合わせ丁寧に対応できるよう努力しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人ひとり、得意不得意があるので無理強いすることなく、ご自身から進んで行えるよう声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に合った作業や楽しんで行えるものを無理せずやって頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で整える事が難しい方は一緒に揃え替えて頂いています。室温などにも注意し季節に合ったお洋服を着て頂いています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に合った食事形態にし、コースでも同じメニュー、同じ味で食事を楽しんで頂けるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取表を管理し一日に必要な食分量、水分量を管理しています。極端に減少してきた方においては、ドクターに相談しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは誤嚥性肺炎の予防につながるので、ご利用者様ご自身ができる場合は自分の力で行って頂き仕上げ確認をし、出来ない利用者様は職員がお手伝いさせて頂いています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自力でトイレに行ける方はご自身で、そうでない方は時間で声掛けを行いトイレ誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課のラジオ体操、園外への散歩にて、身体を動かして頂き、排便がスムーズに行えるように支援しています。必要な場合には薬の処方も頂いています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1日3名を基本に、ローテーションで入浴提供しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中は体操と散歩。午後は、歌やレクリエーションを行っています。入浴以外の方は、足浴の実施し、安眠に繋がるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様ごとにチェックシートがあり、複数の職員間での確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日直係のように食事の号令かけをお願いしたり、出来る方に出来る事をやって頂いています。レクでの計算なども皆さん競ってお答えになって下さいます。他の利用者様や職員から褒められる事でご本人も気分良く活動しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課の散歩や定期通院に出かけております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルを防ぐためにも、入居時に家族へ説明させて頂き持ち込まないよう協力を得ています。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からのお電話等は取次ぎ、お手紙のやり取りも職員が支援させていただきます。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には表札と居室の担当者の名前を貼りだしています。今のテーブルは丸で、見た目にも和やかです。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の好きな時間にそれぞれテレビを観たり、新聞を読んだり、他の利用者様と雑談したり、皆様、自由にお過ごし頂いています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さん入居時には思い思いの物を持ち込んで下さっているのも今までと全く異空間という事はないと思います。お家にいる感覚でゆったり過ごせるよう努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには「入っています」「空いています」の札を設置し、出来ることを活かして生活をして頂いています。また、洗面所(洗面かご等)にも名前を付け混乱なく生活出来るように工夫しています。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名      グループホームさくら園

作成日                      令和   6年   3月   25日

## 【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目            標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	33	コロナ禍が続き看取りを希望される家族も増え何度か看取りを経験しましたが職員の経験不足、知識不足による不安がうかがえました。	看取りの研修等に参加し職員の技術向上を目標としていく。	外部研修による職員の知識、技術向上。御家族様との具体的な話し合いを行っています。	1 2 ヶ月
2	35	コロナにより地域の消防団と合同の夜間想定避難訓練が出来ていません。	毎年1月に合同訓練があるので来年は小規模でも開催する。	町内会長と消防団に相談し開催復活を目指していきます。	1 2 ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。